

ウイルス



こまめに手洗いを

3月から4月にかけては、大人、子どもにかかわらず心が一番うきうきする季節です。卒業、入学、就職、花見、新しい年度にむけてのいろいろな会合等、繁忙な時期でもあるが、未来を感じさせる時期でもあります。

ところが、昨年11月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスで状況は一変しました。花巻市は他自治体より早く対策本部を立ち上げ、3月2日から19日まで小中学校の休校を決めると同時に、公共施設の休館も行いました。子どもたちにとっては待ち遠しい春休みが、期せずして前倒しされ、自宅待機という行き場のない寂しさだけが伝わってきます。

そんなとき、10年ほど前に読んだ「生物と無生物のあいだ（福岡伸一著）」を思い出し、再度読み直してみました。

「ウイルスは他生物の細胞を利用して、自ら複製させる極微小な感染性の構造体で、生命の最小単位である細胞や、その生体膜である細胞膜も持たず、自ら増殖することがないので非生物とされる」とありました。

ウイルスの大きさは、最初の発見者、ロシアのデイミトリ・イワノフスキーによって、素焼きの陶板をくぐり抜けることができるくらい小さな物体であることが分かっています。ちなみに、素焼きの陶板は、網目状に微小な穴が無数

に入り組んだ形で空いています。ダニエル電池をつくるとき、素焼きの板を2つの溶液の中に入れると、混合しないでイオンだけを通すことで知られています。このため、大腸菌や赤痢菌のような単細胞微生物でも、さらに5分の1から10分の1以上小さい穴を通り抜けることはできません。

ところがウイルスは、この陶板をなんなくすり抜けるほど小さく、タバコの葉のモザイク病の病原体として発見されました。当時の光学的顕微鏡では見ることができず、後に電子顕微鏡によってその姿が確認されました。

その特性は、自分でエネルギーを作ったりタンパク質を合成することができません。しかし、ウイルスはいったん他の細胞に寄生すると、宿主細胞の道具を無断借用して、自分自身の遺伝子と、それを格納する殻を複製し、どんどん増えることができます。やがて宿主である細胞膜を破って一斉に外に飛び出し、次のターゲットを探します。まるでエイリアンのようだと表現しています。

文明の発展は鉄製の武器と銃、それと病原菌が関与したとされています。農耕社会の強みは、伝染病に対する抵抗力を身につけたことです。家畜とともに暮らす人々は、動物が持つ感染症に対して免疫が発達したと言われています。新型コロナウイルスがこれほど猛威を振るっているのは、現代人に対しての大きな警鐘と考えるべきではないでしょうか。

（広報広聴特別委員会委員 盛岡耕市）

新花巻図書館整備特別委員会を設置

～目指すべき図書館の姿を探る～

新花巻図書館の整備について調査検討を行うため3月18日、市議会に特別委員会を設置しました。同委員会は、議長を除く全議員で構成しています。同日開かれた第1回委員会で正副委員長に伊藤盛幸委員（市民クラブ）、副委員長に佐藤峰樹委員（明和会）を選出しました。

この日の委員会で、特別委員会を円滑に運営するため、委員会内に小委員会を設置すること、小委員会の委員定数を8人とするなど、委員の選出方法なども確認。次回の委員会でも小委員会に関する正式に決定することとしました。

特別委員会設置

これまでの経過

新花巻図書館の整備について、市ではこれまで平成29年8月、「新花巻図書館整備基本構想」を策定する際に市民説明会やパブリックコメントを行い、市民から意見を聞いて構想を取りまとめました。

が、その後は具体的な説明会などは行われていません。

市議会定例会の一般質問で、議員から新図書館の整備方針や場所などについて質問があると、それに対する答弁の形で考えが示されてきました。昨年12月の市議会で、建設場所は花巻駅東側のJR用地でスポーツ店が建っている場所、土地は賃貸により確保するとの考えが示されました。

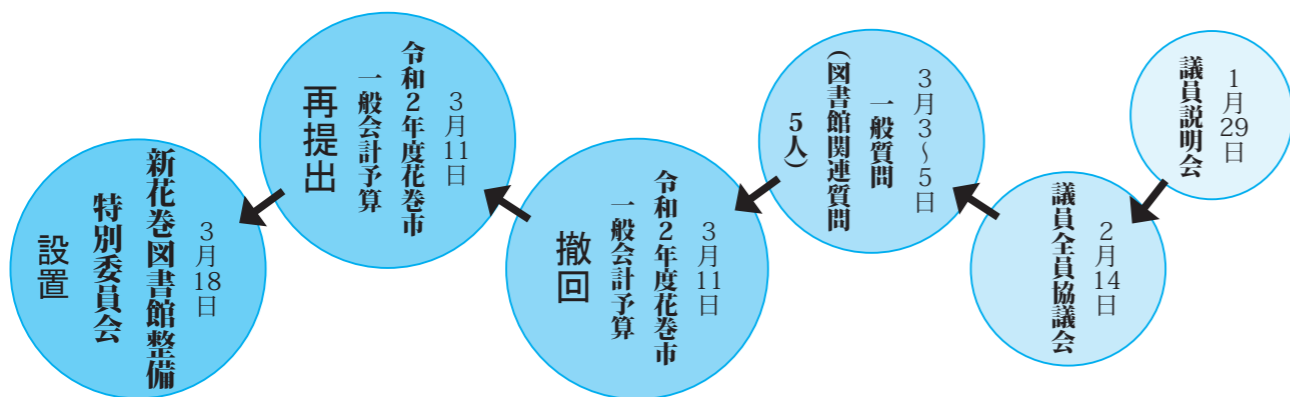
それから約1カ月半後の本年1月29日、新花巻図書館複合施設整備事業構想が議員に示されましたが、その進め方や内容等に疑問が持たれていました。

予算案を撤回 新年度一般会計

市は3月11日、議会が図書館整備に関する特別委員会を設置する予定であることを理由に、一般会計予算案を撤回。議会は同日、これを承認し、改めて提出された予算案を審議することにしました。再提出された予算案は、次の事業が削除されたものです。

- ▽花巻駅周辺基盤整備検討調査業務委託料 2749万7000円
- ▽アドバイス等業務委託料 1500万円

新花巻図書館の整備に係る動き（令和2年）



【お詫びと訂正】 花巻市議会だより第61号のコラムの掲載内容に誤りがありましたのでお詫びして訂正させていただきます。（訂正前）西栗倉村 （訂正後）西栗倉村